

新宮山彦ぐるーぷ第1871回―1

連休中の行仙宿への来宿舎の対応と

行仙岳北面段差と笠捨山撤き道(旧通信道)修復改修作業

◇実施日：平成28年4月29日(金)～5月01日(日)

4月29日(金)

晴。北西風強く寒い

◇参加者：樋口義也・前田 正、川島 功、青木宏充。 4名。

当初、連休初日は二人であったが、旧知の岳友・樋口氏が手伝おうかと電話連絡して下さり、頼もしい支援者の参加により修復と改修作業が捗る事になった。

前日の低気圧通過後、冬の気圧配置になり風が強く肌寒い。食料品以外にチェンソー、大ハンマー、ガソリン5リットル等の荷物が多くM機を使用した。

行仙宿に10時着、行者堂で安全祈願すると共に幟を立てるが強風で何度が手直りする。気温5℃と寒く、缶ビールを冷やす氷2kg持参したが必要が無い天候である。

水場は前日の雨で底冷えしづらい水量が流れ、各自水10リットル補給する。

11時過ぎから早めの昼食をしていると、11時半前に修験装束の椎木氏がひよっこり来宿。奥駈行は、単独で抖擻するつもりだが腰痛があるからと聞き、連絡が無く奥駈行は実施しないと思っていただけに旧交を温める。今回、新宮からでなく本宮から5月3日の大峯山戸開けに参加される。玉置神社泊なのでこの時間に行仙宿到着は、4時頃の早朝出立と健脚のなせる技であり、腰痛は心配無い様だ。暖かい味噌汁とコーヒードで体を温められ、明日前鬼裏行場を巡るには、持経宿泊が都合良く、同宿せず申訳ないと12時前に出立。

12時半前から、木杭6本、大ハンマー、トンガ、鋸、番線・

シノを担ぎ、行仙岳捲き道を辿り笠捨山北面の段差修復箇所へ。



椎木氏来宿



捲き道補修



北面の段差修復

先般補給の木杭・段差材等で崩れた段差を修復すると共に全ての木杭をハンマーで打ち固める作業である。下半分は、段差新設と補修及び雨水が流れ下らない溝切り作業。上半分は、木杭を大ハンマーで打ち固める作業である。

連休前に点検巡視出来なかった持経宿～行仙岳間は、青木氏が点検巡視(倒木4本処理)して、14時前に北面段差作業中に合流。14時40分に作業終了。笠捨山から下山前に青木氏知人の吉田組(三菱電機株)4人中3人が登頂して来る。



青木氏合流



分岐下修復完了



本日の作業者

来宿者の予約は、9人であり、乾氏から送付頂いたコシアブラと本日採取のリョウブの葉芽、絹さや豌豆、椎茸・イタドリ等の天麩羅の夕食とする。

宿泊者の早朝発は、入口側に寝る様に指示手配する共に天麩羅をお裾分けするが、次から次へと来宿者が増え、天麩羅を揚げるだけで夕食にならず、略食事を終える頃に管理棟へ場所を移し夕食とする、御飯は電子レンジでチン。

19人目は、予約者のドイツ人女性(本宮で語り部)で18時半過ぎに到着、小屋は略満杯配置済みのため、管理棟(中2階)で我々(川島・樋口・前田)と同宿。消灯は21時。

行動タイム

鶉殿 7:00→8:30 行仙登山口 8:45→10:00 行仙宿↓水汲み等↓
11:15 昼食(椎木氏 11:25→11:55)12:20→13:00 北面巻き道分岐↓
作業(青木氏合流 13:50)→分岐下の作業 14:20→14:40 分岐上の作業(行仙岳)14:50→15:20 行仙宿。

4月30日(土)

快晴、朝の外気温3℃

◇参加者；樋口、前田、川島、青木、沖崎吉信、濱野兼吉、

奥村順夫。

7名。

毛布3枚では、寒くなりそうで毛布を取りたいが、ドイツ人女性客就寝の為取り出せず、前田氏朝方寒くて眠れなかったとの事。

天麩羅の残り野菜で味噌汁にするが、ダシ入り味噌では無かったため、醤油を用いて美味しい味噌汁を樋口氏が調理してくれる。

朝食の後片付けがあり、8時に大ハンマー2、トンガ1、鋸、番線、ロープ及び各自パイプ杭(電源開発株の寄贈品) 3〜4本(1.2m・1.5m)担いで葛川辻側の奥駈道・旧通信道分岐へ。分岐には、吉田組4人が笠捨山経由で運んだパイプ杭が4本置いてある。

この分岐取付きは、横棧木・木杭が斜面下に落下し、崩れ易い土の斜面トラバース道で一番に改修すべき地点である。

棧木を引き上げ、パイプ杭を打込みトラバース道を改修すると共に山側からの崩土止めの横棧木を新たに設置する。



分岐改修前



改修作業



分岐改修後

傾いた棧木は起し、浮いた横棧木は地面に接地させて土留めの機能をさせる様に大ハンマーで叩く。

何しろ大ハンマーは重いので1本打つと息が上がり、交代しながら作業をする。分岐から約100mの改修に1時間15分費やした。

分岐から次の修復・改修地点に移動して作業していると、11時半前に沖崎、濱野両氏が、我々の昼食弁当並びに飲物を持って応援に来て下さる。



分岐からの改修道



改修前



修復作業

昼食後、急傾斜で崩れやすい斜面に倒れた栈木・木杭を引抜く作業は、主にバランス感覚のある樋口氏、土寄せは青木氏が担当し、他の者は交代で木杭、横栈木を大ハンマーで叩き改修する。修復・改修地点が移動する毎に、パイプ杭、栈木・木杭・ザツクを交互に移動させる。

14時に分岐から約20分辿った地点で作業を終了する。明日も作業なので道具類は現地に置く。

行仙宿に戻ると、奥村氏が恒例の鯉幟を揚げに来宿。お湯が沸かされコーヒーとトチ餅を頂戴する、ビール派はトチ餅無し。

夕食は管理棟で、食担の沖崎氏の計らいでめったに食べられない上等な焼肉バーベキューのご馳走であり、酒の酔いもあり喧嘩の様な議論となるも、何時もの様に収まる。

本日の予約者2名に対して6名来宿。21時に消灯。

行動タイム

行仙宿 8:00→10:00 奥駈道・旧通信道分岐→分岐作業終了11:15
→11:30 沖崎・濱野合流(昼食)→作業終了14:10→15:40 行仙宿。

5月01日(日) 快晴

◇参加者；樋口、前田、川島、青木、沖崎、濱野、奥村、

乾 克己、児嶋道夫。

9名。

起床5時半。バーベキューの残り野菜で樋口氏味噌汁を作って下さり、残った焼きおにぎりやサトウの御飯と漬物で朝食。

夕食と朝食の後片付け及び小屋の清掃とゴミ焼却は、奥村氏にお願いして、昼食の缶パンとテルモスにコーヒーを入れて7時に行仙宿を発つ。

道具類デポした地点から昨日と同様の作業分担で旧通信道の修復改修作業をする。今日は、暑く喉が渇き、適宜小休止する。

11時45分、缶パンの昼食。

昼食後、山側土砂留めの長い鉄パイプが横倒しになり、その下

の傾いた栈木上を歩いて通っていたが、長い鉄パイプを支える倒れたパイプ杭の番線を切り、パイプ杭を打ち直し、長いパイプに沿いの道に改修し、分岐から約35分辿った地点で12時50分作業を終了した。次回作業(6日)に、ハンマーとトンガは現地道端にストックする。



浮いた栈木を叩く修復作業



トンガで土寄せ



改修前



改修前



改修後

N024鉄等で、心地良い爽やかな風を受けて小休止。

N023鉄塔分岐を過ぎ戻って行くと、乾、児嶋氏と合流する。

乾氏は、本日の来宿者対応の小屋番が居ない事から、一日繰り上げて来宿して下さり、その気配りがあるがたい。児嶋氏は、M機の駐機小屋を建てる測量に来宿され、旧通信道改修作業の応援

に来て下さる途中で、全員本日帰宅のため早めに作業を終了したので、一緒に行仙宿小屋に戻る。

奥村氏は、鯉幟を揚げて下山されていた。

児嶋氏の清見蜜柑、濱野氏差し入れのパイとコーヒーを頂き、作業者の記念撮影後、乾さんに本日の来宿舎の対応をお願いしてアルミ缶等のごみを持って下山。児嶋氏は、下山時にM機駐機小屋の計測をされた。

青木氏は、車を停めた持経宿へ戻り帰宅予定であったが、友人来宿のため予定を変更し連泊。



土留めパイプ上の改修道 幟・鯉幟の行者堂

旧道信道の作業者

行動タイム

行仙宿 7:05→8:30 道具デポ地点→11:45 昼食 12:10→作業終了
12:50→14:10 行仙宿 15:05→15:45 登山口 15:50→17:10 鵜殿。

(記 川島)